

科目名	ヨーロッパ文化論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			国際観学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	European Culture	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	はんだ さちこ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	半田 幸子	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	ヨーロッパの文化に関する幅広い知識と教養を身につける。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. ヨーロッパの社会および文化に関する基礎的な知識と教養を得る。 2. ヨーロッパの社会および文化の一端に触れ、その歴史的背景を理解することができる。 3. 現代のグローバル社会の社会的および文化的構造を理解することができる。			
授業概要	授業では、まず、ヨーロッパの概念、宗教、言語、都市など基礎的事項を確認します。その上で、映画を通してヨーロッパの社会および文化の一端に触れ、その歴史的背景について学びます。今年度は、西ヨーロッパの主要3カ国（英国、フランス、ドイツ）および中央ヨーロッパのチェコを取り上げ、各国が現在抱える社会問題を糸口に、それぞれの歴史、社会、文化について理解を深めます。その上で、各国に共通する社会問題や文化について考えるとともに、それらを敷衍してグローバル社会の文化的構造についても考えます。			
授業計画（以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の学習状況によっては変更することがあります。）				
第1回	ガイダンス（授業概要説明等）			
第2回	前提知識 ①：ヨーロッパとは何か（概念、宗教、言語、都市など）			
第3回	英国：ケン・ローチ監督の映画作品を通して英国の社会問題について学ぶ <映画鑑賞 ①>			
第4回	<映画鑑賞 ②>			
第5回	小括：英国の社会と文化			
第6回	フランス：映画作品を通してフランスの社会と文化について学ぶ <映画鑑賞 ①>			
第7回	<映画鑑賞 ②>			
第8回	小括：フランスの社会と文化			
第9回	ドイツ：ファティ・アキン監督の映画作品を通してドイツの社会問題について学ぶ <映画鑑賞 ①>			
第10回	<映画鑑賞 ②>			
第11回	小括：ドイツの社会と文化			
第12回	チェコ：イジー・メツェル監督の映画作品を通してチェコの歴史について学ぶ <映画鑑賞 ①>			
第13回	<映画鑑賞 ②>			
第14回	小括：チェコの歴史と文化			
第15回	まとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 事前に教科書を読んで理解し、不明点を洗い出しておく。（週1.5時間程度） 2. 授業後に、該当箇所を改めて読み直してノートにまとめ、理解を深める。（週1.5時間程度） 3. 不明な箇所は、教員に聞いたり、参考文献を読んだりすることで、不明を解消する。（週1時間程度）			
履修条件 受講のルール	<受講上のルール> ・授業後の復習の習慣を身につけてください。 ・授業中の私語など、周囲の迷惑になる行為は謹んでください。			
テキスト	授業中にプリントを配布します。			

参考文献・資料	T.G. ジョーダン=ビチコフ/B.B.ジョーダン『ヨーロッパ——文化地域の形成と構造』山本正三、石井英也、三木一彦訳、二宮書店、2005年。 ほか、適宜、授業の中で紹介します。
成績評価の方法	【授業への取り組み（45%）、毎回のコメントシート（5%）、定期試験（50%）】 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が十分であることを確認するため、学期ごとに3回の小テストを行います。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 15:00～ ※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	ヨーロッパと一言で言っても、概念の切り口は様々であり、また地域的にも大変広範囲に広がっており、歴史も古いため、半期の授業ではどうも語り尽くせませんし、一人の担当で扱うものでもありません。したがって、この授業では、ヨーロッパ文化のほんの一端に触れながら、その有機的な関連性に思考を巡らせることで、視野を広げ、思考力を養うことを目的とします。まずは、映画を通して、理解力、考察力、思考力を養いましょう。